

研究課題名	門脈体循環短絡路の塞栓術の有効性を規定する因子についての後方視研究
研究の意義・目的	主に肝硬変によって生じる門脈大循環短絡路は、その存在が肝機能を悪化させ、肝性脳症を引き起こすことが知られています。門脈大循環短絡路の塞栓術のうち、胃静脈瘤に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術（BRTO）が最も代表的な治療で、広く行われている治療法ですが、近年、門脈大循環短絡路の塞栓術が、肝性脳症の症状改善や、肝機能を改善することが複数の研究で報告されています。しかしながら、どういった場合に肝機能や肝性脳症を改善させるのか（治療の有効性）や、合併症が発生しやすいのかに関しては未だ十分な解明がなされていません。治療の適応を明確にするために、本施設における門脈大循環短絡路の塞栓術を受けた方から得られた情報をもとに解析検討し、よりよい治療法の選択ができるようになることを目的としています。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2030 年 2 月 10 日
研究協力を お願いしたい方 （対象者）	2007 年 1 月 1 日～2024 年 10 月 31 日の間に門脈大循環短絡路の塞栓術（胃静脈瘤に対する BRTO など消化管静脈瘤の治療が主目的の場合も含む）を受けた方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報（性別・年齢・身長・体重・血圧・SpO2・全身状態(PS)・背景疾患および投薬内容・肝性脳症の有無および程度と頻度・肝癌の有無)、治療内容、治療後の転帰、術前治療および術後追加治療の内容、血液検査、画像検査結果（CT、MRI、超音波、血管造影）、消化管内視鏡検査
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科放射線診断学・IVR 学のみで行います。 【研究責任者】山本 晃
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR 学 (担当者氏名) 原田 翔平 電話番号：(06) 6645-3831 メールアドレス：gr-med-radiology@omu.ac.jp